

B-ism

NO.1

佛教大学

佛教大学広報誌
mokuji

- 2 巻頭特集 Special Interview
- 6 hot-TOPICS.
- 10 オープン・フィールド
- 12 輝き Close Up
- 14 学生編集室の窓
- 16 「密着！坪内ゼミ」
- 18 Event Pick Up
- 20 Listen UP—OB・OG訪問
- 22 B-Information

B-ism
no.1

発行日
2010年(平成22年)10月23日

発行者
山極 伸之

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/
www.bukkyo-u.ac.jp/mobile/nyushi/

撮影場所 知恩院

学長 語る

Special Interview

佛教大学
山極 伸之 学長

「学生が主役の大学」をめざして

佛教大学は2012年（平成24年）に開学100周年を迎えます。「感謝—ありがとう—」をコンセプトに様々な記念事業を進めています。さらなる飛躍を目指す佛教大学の学長として、走り続ける山極学長が100周年の持つ意味や大学の理念、進むべき道などについて熱く語りました。



「100周年を迎えるにあたり、大学のこれまでの歩みをどのようにお考えですか。」

学長として、入学した1回生全員に、佛教大学がどのような大学であるのかを学んでもらう「自校教育」の授業を担当しています。大学の建学の理念や歴史、大学で何を学び、どう成長してほしいのかを学生に知ってもらうことを目的としています。その中で、大学の100年にわたる歩みについても語っています。

には地域社会からの支援が存在します。それらが紡ぎ出す物語の重要性を、私も学長となってひしひしと感じていますし、このような大学の歴史を学生の皆さんにも知ってほしいと思っています。

「学長も佛教大学のご出身ですね。」

学生時代から数えると、約30年。ずっと大学とともに生きてきました。卒業後、本学の教員となってからも、母校を少しでもよくしたい、発展させたいと考えて勤めてきました。その過程で、「大学がよくなる」というのは、「そこで学ぶ学生がしっかり成長できる」ことに他ならないと考えるようになりました。「よい大学」を計る尺度はいろいろありますが、最も大切な尺度は、学生の成長にあると思います。100周年を機に、あらためてこの点を、学内の教職員全員で確認する必要があります。

す。

「開学100周年記念事業のコンセプトは「感謝—ありがとう—」だとうかがいました。」

100周年という大きな節目を迎えるにあたって、私たちがまず考えたのは、足下を見つめなおすことでした。学内の人間にとって100周年はとてもめでたいことです。しかし、学内関係者の努力だけで、これまでの発展を遂げることはできません。そこには地域の人々の理解があり、また大学の位置する京都という社会の支援が不可欠であったと考えます。そこで、大学周辺で本学と密接に関わる方々から、広く京都に住む人々、さらには全国の有縁の方々「感謝」のメッセージを贈らせていただきたいと思ったのです。

「開学100周年記念事業のコンセプトは「感謝—ありがとう—」だとうかがいました。」

100周年という大きな節目を迎えるにあたって、私たちがまず考えたのは、足下を見つめなおすことでした。学内の人間にとって100周年はとてもめでたいことです。しかし、学内関係者の努力だけで、これまでの発展を遂げることはできません。そこには地域の人々の理解があり、また大学の位置する京都という社会の支援が不可欠であったと考えます。そこで、大学周辺で本学と密接に関わる方々から、広く京都に住む人々、さらには全国の有縁の方々「感謝」のメッセージを贈らせていただきたいと思ったのです。

「建学の理念の仏教精神と大学教育についてのお考えは。」

本学は校名に「仏教」を冠する大学です。先程も触れましたように、大学の建学の理念は仏教精神であり、この点こそが、佛教大学の最大の特徴、個性であると言えます。

病死」と表現しますが、このような人間のライフステージの中で、私たちはさまざまに悩み、苦しみながら生きていきます。仏教は、こういった人のあり方全体を相手とします。社会の構成員の一人として、一体自分は何ができるのだろうか、人は人に対して何をなすべきなのか。そういった問題と向きあってしっかり考えるということが、まさに仏教そのものなのです。

一方で、仏教には柔軟性も備わっています。ですから、仏教を基盤としつつ、社会が抱える現実的な課題を解消するために、それぞれの領域で活躍できる人材を養成すること、それが本学の果たすべき役割となります。例えば、学校現場で子どもたちが抱える問題と向きあいながら、その成長をしっかりと支援する人材の養成が必要です。あるいは、高齢化が進む現代社会にあって、介護や福祉に関わる問題が深刻化していま



山極伸之(やまぎわのぶゆき)
1961年、長野県生まれ。佛教大学文学部仏教学科を卒業。同大学院博士後期課程単位取得満期退学。博士(文学)。マールブルク大学宗教資料収集研究所客員研究員、イエール大学客員研究員、佛教大学教授などを経て、2009年4月1日より現職。専門は仏教学。日本印度学仏教学会賞、浄土宗学術賞を受賞。浄土宗教師。趣味はサッカー、フットサルと音楽鑑賞。高・中・小の二男一女の父でもある。

「学長の研究は、初期の仏教教団が対象とうかがいましたが、私自身は、仏教発祥の地であるインドの初期の仏教を研究してきました。もと

もとは、仏教を開かれた釈尊(ゴータマ・ブッダ)に関心があったのですが、次第に釈尊だけでなく、初期の仏教を担った人たち、インド仏教の僧侶が実際にどのように生きていたのかを、具体的に聞いて、どんなものを食べていて、どこに住み、何を身につけて、そして何を語っていたのかということ。さらには、僧侶たちがどういった集団を構成していたのか、その集団はどう運営され維持されていたのか。言いかえれば、僧侶たちの、人としての歩みに強い関心を持っています。

「ご自身で、「縁学(えにしがく)」という講義を持っておられたと聞きました。春学期に仏教学部で開設

「仏教学部、歴史学部の開設や、2012年度の看護学科新設など、大学の再編成に取り組みられています。より幅広く各界に佛教大学人が進出することに なっていきます。学長として、みなさんにどうあってほしいとお考えですか。 本学を卒業された方は、みな「佛教大学人」であるわけですが、一人でも多くの方に大学で学んだことをそれぞれの人生でいかしてほしいと思います。社会の一員として、社会的責任を果たしていく際に、大学で学んだことが実際に役に立つ。その時、振り返って大学での学びの成果がそこにあると自覚できる。こういうことを実感していただければ本当に嬉しく思います。私自身、社会で生きていく中で「大学時代に学んだあの時のことが役に立った」と実感することがあります。それが、10年後であったり、20年後であ

す。このような中で、お年寄りの方々に寄り添いながら、福祉現場で働く人材の養成も求められています。病気はいつの時代にあっても大きな課題です。保健や医療、あるいは病後のケアといった面で、多くの課題に向きあう人々が必要とされています。こういった、現代社会において求められる人材輩出という目的に呼応して、本学の学部学科が設置されているのです。その根底には、つねに仏教精神があり、その上で専門領域の学びが展開されています。仏教精神をベースに、社会においてそれぞれの専門分野で活躍することができ、人材を輩出すること。これが本学の使命であると考えます。

「縁学」の講義を担当しました。仏教を学ぶことを主な目的としている1回生が受講していましたが、そこでは、一人ひとりの学生とできるだけ会話をしながら、現代社会が抱える問題に対して何を考え、どのようにコミットすべきかについて考えてもらいました。その際、大切なのは、自分自身をしっかり見つめることにあります。自分を高めようとしても、あるいは具体的に何かをしようとしても、自分の

立っているところ、そして自分自身の力がわからなければ進むことはできません。これは法然上人の教えそのものですが、自分のいたらなき、愚かさをしっかりと自覚できなければ、人に対して何かを行うことはできません。自分自身の課題や問題点を見つめ直して、人は初めて向上しているものだと思います。その姿勢がなければ、他の誰かと一緒に何かをするということは難しいでしょう。 仏教の思想を根幹に据えな

「閉塞状況といわれる日本ですが、学生に一言。リーマンショック以降、日本はますます困難な状況下に置かれていると思います。学生の就職や、学費の支払いをはじめとする経済的な負担に関わる問題など、保護者の方々の状況も一層厳しくなってきました。それだけに、大学も状況に応じて変わっていくかなければならないと思いま

「学長に就任された折には、40歳代の若さが話題になりました。あらためてリーダーとしての思いを聞かせてください。 大学を取り巻く環境が厳しくなる中で、佛教大学の舵取りを任せられたわけですが、開学100周年を機に、「佛教大学のさらなる前進」という目標に向かって、機動性と行動力を持って取りこんでほしいという期待があったのだらうと受け止めています。その力が十分に備わっているかどうかわかりませんが、佛教大学の新たな歴史を刻んでいくにあたって、私は「大学の主役は学生である」という考えを強調しました。 本学のこれまでの歩みを踏まえ、時代の変化を見据えつつ、何よりも学生が主役となる大学づくりに向かって、大学一丸となって邁進していきたいと思えます。



今だから伝えたい、「ありがとう」がある。

- 募集内容
幼稚園・保育所(園)、小学校、中学校、高校など。
これまでお世話になった先生へ、伝え忘れた「ありがとう」の手紙(150文字くらいまで)を募集します。
- 応募資格 問いません。
- 応募方法
【郵送】専用はがきにてご応募ください。
【ホームページ】下記WEBサイトの応募フォームからもご応募できます。
<http://www.bukkyo-u.ac.jp/100th/arigato/sensei/>
- 受付期間
2010年10月1日(金)～2011年2月28日(月)
*締切日消印有効
「佛敎大学開学100周年 先生ありがとうプロジェクトサイト」オープン!
<http://www.bukkyo-u.ac.jp/100th/arigato/sensei/>

こちらのWEBサイトでプロジェクトの情報を、随時更新いたします。
届いた手紙は、本学で内容確認の上、プロジェクトサイトへ掲載いたします。
もしかしら、あなたの手紙を先生が読んでくれるかもしれません。

ありがとうを、もっと。

佛敎大学は2012年に開学100周年を迎えるにあたり、お世話になった皆様に感謝の思いを届けると共に、世の中にありがとうを広げていくプロジェクトをおこなっています。

いま日本は、とても豊かな国になりました。その一方で、不景気や環境問題など、最近少し暗いニュースが多いですね。100年分の「ありがとう」を込めて、もっと世の中を元気にしたい。それが佛敎大です。

2012年、佛敎大学は100周年を迎えます。創立した明治45年は、まだまだ日本が貧しかった時代。今みたいに、コンビニやPC、携帯電話のような便利なものもなく、お腹一杯ごはんを食べられることが贅沢でした。それでも、周りの人同士で助け合い、「ありがとう」を言い合う。決して裕福ではないのに、町は不思議と活気に溢れていました。私たちの100年も、そうしたたくさんの方々の支えがあったからこそ。「ありがとう」の気持ちでいっぱい

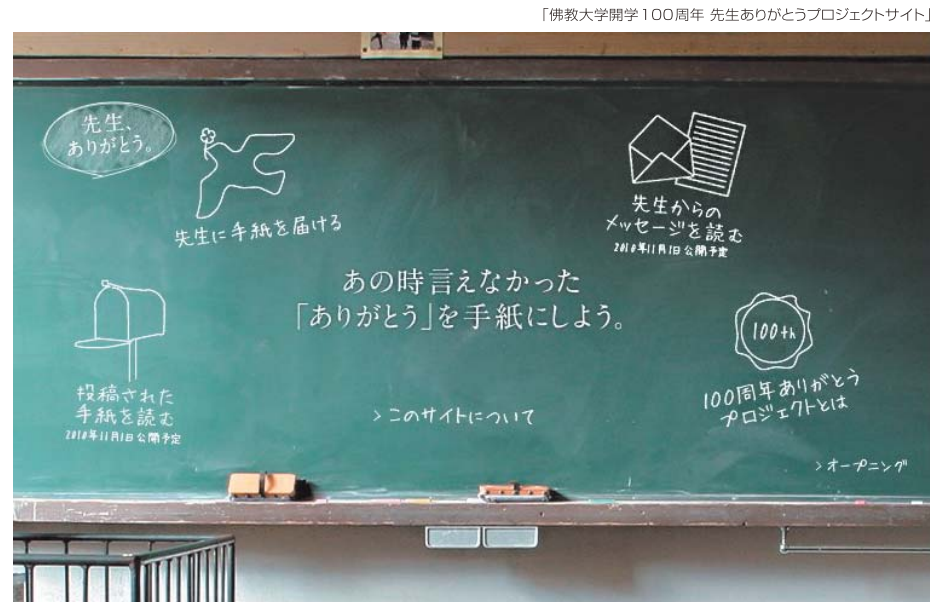
学級の崩壊、いじめ、不登校など、たくさんさんの問題を抱える教育現場ですが、教員さんたちのために、体を張って頑張る先生たちにはたくさんいます。あのとき先生が叱ってくれたから、やり直せた。誉めてくれたから、自信が持てた。先生と出会ったから、今の自分がある。きっと誰の心の中にも、そういう先生がいるはず。でも、きちんと「ありがとう」を伝えられた人は少ないと思います。

もし、教員さんからの「ありがとう」が増えたら、先生はもっと元気に頑張れる。学校には、もっと活気が生まれるはず。

学の思いです。教育機関として、まずは身近な学校から。

佛敎大学開学100周年

先生ありがとうプロジェクト



「ありがとう」で、世の中を元気にする。まずは学校から。

ありがとうの多い人生は、いい人生だ。



開学100周年を迎えるにあたって佛敎大学ではこれまでの感謝と今後の発展への願いを込め、マスコットキャラクター制作をすすめてきました。いよいよ10月28日創立記念日に公式マスコットキャラクターが発表されます。キャラクターは全国から公募、1374点もの応募がありました。

制作にあたっては、学生たちが「公式マスコットキャラクター制作プロジェクト」チームを結成、学内外への広報をはじめ、審査、決定まですべてに取り組みました。プロジェクトリーダーの社会学部公共政策学

佛敎大学開学100周年 大学公式マスコットキャラ いよいよ発表へ

応募1374点から審査 プロジェクトは学生が企画・運営

8月中旬時点の応募状況は、約300点くらいで、川本さんは「もっと広報活動をする必要があるのでは、と心配しましたと言いますが、このころから急激に応募作品が増え、うれしい悲鳴をあげることになりました。寄せられた作品は、佛敎大学のアットホームなイメージを表現したものが多く、学生たちの思いと重なって、うれしかったといえます。象や鷹、フクロウなど動物をモチーフにしたものから、仏様や大学の頭文字の「B」をデザイン化したものまでバラエティーに富んでいます。

応募作品は、9月上旬の第1次審査で29作品に、さらに学内に掲示して学生・教職員など関係者の投票で20作品に絞り込みました。どれも水準が高く、学長、学生、学外の方を含む14人による最終審査も難航したといえます。マスコットキャラクターは佛敎大学の「顔」として、さまざまな活用が考えられますが、着ぐるみを作って、課外活動の

科2回生の川本大地さんに活動を振り返ってもらいます。プロジェクトがスタートしたのは、今年の6月1日。チームのメンバーは約25人。まず、過去に公募によりマスコットキャラクター制作した他大学の取り組みを研究しました。そして、募集のチラシを全国の大学や専門学校など1430校に送付したり、各種コンペ情報を掲載しているインターネットサイトに投稿するなど学外広報をすすめることも、プログを新設、学内の食堂などにポスターを張りまくったといえます。また、全国から集まる通信教育課程のスクーリング受講生への広報も行い、ほとんど夏休みもとれないほどの忙しさでした。



社会学部 公共政策学科 2回生 川本大地さん



応援にも登場させる計画です。川本さんは「学生にこの大きなプロジェクトを任せてもらったことがうれしかったし、何かの縁を感じました。佛大生は、人には優しいけれど、自分を表現するのが今ひとつ苦手という気もします。今回のプロジェクトで、自分たちが中心に動いたことは意味があると思います。大学・学生が変わっていく中核になりたいと思っています。チーム運営や活動に時間を取られて、結構苦労しましたが、しんどいこともありましたが、さすが、その苦しさも成功につながったときの達成感は大いだと思います。教職を目指している私にとっても、得ることが多かったです」と笑顔で話してくれました。



壁画プロジェクト

校舎建築工事現場には、本学文化会美術部の学生が「癒し(いやし)」をテーマにデザインした壁画が描かれています。美術部員と有志の学生が描き、6月に完成。このプロジェクトは開学100周年記念事業の一環で、保健医療技術学部をシンボリックに表現しています。「輪」と「風」によって構成し、大小の「輪」は温かみのある人と人とのつながりを、絡み合う「風」は清涼感のある人の流れを表しています。

さらに、海外の福祉にも詳しい岡村教授は「高い技

術力を誇る国にもかかわらず、日本の福祉は、残念ながら欧米をモデルにそれを追いかけることをやってきました。しかしこれから、地域と家族、行政と企業、大学などがそれぞれの

まです。2014年を目標に、同学部の西側に、より広い敷地のキャンパスが姿を現します。この「二条西キャンパス」の整備や運用については、東キャンパスの計画と並行して学内で検討が始まっていますが、大きな可能性を秘めていることは間違いないと



保健医療技術学部看護学科開設と「二条キャンパス」構想 佛教大学が変わります。

学長特別補佐(社会福祉学部教授) 岡村 正幸

「知の臨床拠点」と位置づけられる二条キャンパスの完成で、佛教大学は大きく変わります。来年4月に保健医療技術学部(理学療法学科、作業療法学科)が移転。また、2012年春には同学部看護学科がこのキャンパスに新設され、2014年を目標に「二条西キャンパス(仮称)」という大きな計画も動き始めました。岡村正幸学長特別補佐(社会福祉学部教授)に、新キャンパスと看護学科新設を中心に今後の大学の展望をうかがいました。



岡村 正幸(おかもら まさゆき) 大阪府環境保健部、愛知みずほ大学を経て、2000年4月に佛教大学社会学部教授。同社会学部学部長などを歴任。社会学部博士。専攻は社会福祉システム論、精神保健福祉論など。最近の著書に「精神保健福祉論」(中央法規出版)など。

保健医療技術学部が 新キャンパスへ

二条キャンパスは、JRと地下鉄の二条駅に隣接し、阪急電鉄の駅からも近い京都市中京区西ノ京梅尾町に建設が進んでいます。身と心を癒すキャンパス「知の臨床拠点」と位置づけられています。

来年4月に理学療法学科、作業療法学科が移転する二条キャンパス1号館は、ガラス面を多くとったモダンな中にも落ち着きのあるデザインです。鉄骨造り(地下・鉄骨鉄筋コンクリート造り)地上7階、地下1階建てで、延床面積1万6792平方メートル。建物内は中央に大きな吹き抜けがあり、開放感と明るさを感じさせるものです。

保健医療技術実習センターも来春、同時に移転し、学生支援関係(事務局、情報システムなど)の整備、福利厚生施設の充実、図書館機能の一部移転なども計画されています。

画されています。

建学の精神に基づく 看護学科新設

佛教大学開学100周年を迎える2012年には、新キャンパスに看護学科も新設されます。岡村教授は、看護学科新設は建学の精神に基づいた佛教大学の将来を考える中で生まれてきたことを強調します。

「仏教を建学の精神とする本学は、人が生まれ、生き、育み、働き、そして人生を終えるまで、それぞれの生きるに寄り添い、支援する人材を輩出する大学であるべきではないか。そうした大学のあり方を考える軸の上に看護学科新設はあ

10年近く前から始まった検討の過程では、「健康と地域生活」をキーワードとして、大学が地域・社会にどう貢献できるのかを議論しました。まず、実現すべき課題として挙げたのは、当時京都では京都大学

にしかなかった「理学療法士、作業療法士の教育機関」でした。地域からの要請や京都府など自治体からも設置の要望があったとい

います。それが、保健医療技術学部の設置として具体化したのです。岡村教授は「既に当時から、視野の中に看護学科もありました。ですから、学部の名称もリハビリテーションという言葉は使わなかったのです。ですが、理学療法士、作業療法士の養成という大切なことを、まず軌道に乗せることが最優先でした。幸い、学生の努力とみなさんの協力も得て、第1期生は国家試験に100%合格できました。そして、看護学科新設という次のステップに進めたのです」と振り返る。

地域と保健医療福祉 「知の臨床拠点」の二条キャンパスでは、どのような取り組みが考えられているのでしょうか。岡村教授は

「知の臨床拠点」の二条キャンパスでは、どのような取り組みが考えられているのでしょうか。岡村教授は「二条西キャンパス」の整備や運用については、東キャンパスの計画と並行して学内で検討が始まっていますが、大きな可能性を秘めていることは間違いないと

岡村教授は「これからの議論ですが、本学のいくつかの学部や機能を集約するという考えもあるでしょうし、開かれたキャンパスとして臨床心理や福祉、保健医療、さらに宗教・文化などのコラボレーションも考えることが出来ると思います。いずれにしても、交通アクセスのよさがありますから、誇れるキャンパスになることは確かです」と話す。市民の大きな関心を集めそうです。

Open FIELD 2

総合学生支援
「縁(えにし)」コミュニティ

「ほっときません! あなたのことを」

学生支援の「縁」コミュニティづくり 支援上回生や新SNSが活躍

入学した学生全員に充実した学生生活を送ってもらいドロップアウトする学生を出さないという理念のもとに、佛教大学は「縁」プログラムに取り組みんでいます。「ほっときません! あなたのことを」を合言葉に、大学と学生が協力して、実際に顔を合わせての集いや学内SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)によって、「縁」コミュニティという共同体を作るというものです。この取り組みは2007年度の文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」のG.P(グッドプラクティス)に選定され、4年目を迎えた今年度が完成年度となります。

取り組みは多彩で、全学共通の「入門ゼミ」での新入生教育▽シンポジウムの開催▽学習情報プラザに上回生が相談に乗る「縁ルーム」を設置▽大学生としての基礎知識を満載した「学びのハンドブック」作成▽新SNSのスタート——などがあります。これらの中でも、柱となるのが支援上回生と新入生との関係構築と新SNS「縁SNS」のスタートです。支援上回生は2回生から大学院生まで約70人。ポランティアで参加しています。実際に支援上回生として、活動している社会学部公共政策学科3回生の滋野正道さんに聞いてみました。滋野さんは、大学に入学して10人くらいの仲間と天文サークル「星空研究会」を立ち上げました。サークルに入ってくる新入生とのコミュニケーションの中で、支援上回生の活動をしようと思ったといいます。支援上回生への相談では、新入生は履修関係、特に教員免許や資格などの取得についての相談が多く、2回生はゼミ選び、3回生になると就職活動の相談が増えるといいます。「佛教大学は温かみのある大学だと思えます。支援活動自体は結構忙しいのですが、縁SNSの準備でも学生の意見を取り入れて、レ

社会学部 公共政策学科 3回生 滋野正道さん

アウトそのものも変えてくださるなど大学の先生や職員の方とコミュニケーションは非常にいいと思います。

この取り組みが始まり、退学者も減っています。大学では、課外活動や経済的問題の「学生生活」、修学相談などの「学習」、メンタルヘルスなどの「健康」、就職情報提供などの「キャリア」の各支援部門と運営部門をネットワーク化し拠点となる「総合学生支援センター(仮称)」の設置に向けて、さらに取り組みを強化します。



教育学部 臨床心理学科 4回生 安東沙記さん(左から2人目)

Open FIELD 1

veggy + café
ベジプラスカフェ

学生が企画・運営するカフェが8月19日〜25日、9月2日〜8日に、京都市上京区の北野商店街にある佛教大学コミュニティキャンパス北野「ゆいま〜る」で営業しました。起業ノウハウの学習と商店街活性化という地域貢献を目指す取り組みです。学生たちは、お客さん呼び込む難しさを実感しながらも、街での実践活動で楽しく有意義な経験をしたようです。カフェは、全学共通科目の「キャリアエクステンション」(武田秀一講師)の授業の一環として開店。講義の締めくくりとしての実践です。授業では、4月から経営コンサルティングの専門家の武田講師が飲食店の宣伝や価格決定など経営について講義。2組2期に分かれて、カフェを開きました。前半の組は8月にハワイアン風のカフェに挑戦。後半の組が「野菜を食べてキレイになるcafé」来た時よりも美しく」をコンセプトに、店の内装やメニュー作り、ポスターやビラ作成に取り組みました。

インテリアは手作りの店名「veggy + café (ベジプラスカフェ)」のロゴを飾り、動物の小物を持ち寄り、可愛らしい雰囲気になりました。メニューは手作りの店名「veggy + café (ベジプラスカフェ)」のロゴを飾り、動物の小物を持ち寄り、可愛らしい雰囲気になりました。メニューは手作りの店名「veggy + café (ベジプラスカフェ)」のロゴを飾り、動物の小物を持ち寄り、可愛らしい雰囲気になりました。



オープン・フィールド
Open FIELD
広がる本学の教育活動

好評 コミュニティカフェ

学生が全て企画・運営。商店街活性化にも一役

ニューは「彩り野菜のトマトカレールー」「シャキ〜ふわ! ベジオムライス」「れんこんたっぷり! 和風ハンバーグ」「小松菜ジュース」「ベジタブルケーキ」など。いずれも、学生がさんさん悩み、工夫を重ねただけあって、見た目もカラフルで食欲をそる出来でした。味も、お客さんから褒められたといいます。

店長を務めた教育学部臨床心理学科4回生、安東沙記さんは、昨年友人が講義を受けて面白そうだったのと、将来カフェを開きたいという夢もあり、履修したといいます。中華料理店でのアルバイトの経験もありますが、自分たちで「営業」する厳しさを実感しました。「お店のオープンまでは、メニューづくりなどで悩んだのですが、オープンするとお客さんに来てもらうのがいかに大変かよく分かりました。期間途中から値下げしたり、急ぎょメニューングセットを出すことになって開店を早めたり……。それでも、開店4日目の日曜には相席をお願いするほどの大入りになって感激しました。商店街の方々とも交流できたのも、いい経験になりました」と感想を述べていました。



縁相談所

通信教育課程BUまなび隊 学びたい!! ~京都から全国各地へ~

通信教育課程では「BUまなび隊」あなたの街でオープンキャンパス」と銘打ち、2008年度より、学びの場を提供したいという思いから全国各地で公開講演会を開催しています。今年度は6月の大阪を皮切りに、神戸、名古屋、東京と開催し、1月には東京、2月には名古屋、福岡で開催予定です。これからも通信教育課程では、「佛教大学なればこそ」の公開講演会を開催してまいります。



Open FIELD 3

通信教育課程
BUまなび隊



B-ism

2010
October

一球、一瞬のプレーの怖さを自覚させたい

菊野 義朗 監督

大学の野球部の活動は人間形成・教育の一環です。みんなに愛される人間に、応援される部になるようにと、意識して指導しています。まず、監督と選手、先輩と後輩の信頼関係がなければ、チームとして技量の向上も図れませんし、結果もついてきません。

今もそうですが、私が現役の選手だったころの野球部もアットホームな雰囲気がありました。もちろん、練習では厳しいことも言いますが、人

と人とのつながりを大事にするチームカラーは大切です。

練習では、走攻守について、チーム内の競争、切磋琢磨を促しています。試合では、一球、一瞬のプレーで勝敗が決します。その怖さの自覚と対応を、どこまで突き詰められるかも追求していますが、まだまだ成長できると考えています。

部の活動は、大学の方針や学生を映す鏡ですから、部員全員がそのことを心に刻んで、佛教大硬式野球部の名に恥じない実績を築きたいと思っています。



吉本 ひかりさん(写真・左)、西原 加純さん(写真・右)

超大学レベルのメンバーで
2大駅伝大会の連覇を目指す

陸上競技部 女子中長距離部門

教育学部 臨床心理学科4回生 / 教育学部 教育学科3回生
主将 西原 加純さん / 吉本 ひかりさん



目前に迫った10月24日の全日本大学女子駅伝(仙台市)、さらに12月23日の全日本大学女子選抜駅伝(つくば市)の両駅伝での2連覇を目指している。

昨年、女子大学駅伝の2大会で2冠を達成し、文字通り日本の頂点に立った。両大会とも初優勝だったが、強化スポーツに指定されて10年、着実に力をつけ順位を上げてきた。レベルの高い関西の大学女子駅伝チームの中でも、超大学レベルの選手がそろっている。輝いているのが主将を務める西原加純さんと、吉本ひかりさんだ。

昨年の全日本大学女子駅伝では本調子ではなかった西原さんを他の5人が支えての大会新記録での優勝。全日本大学女子選抜駅伝でも大会新記録での優勝だった。西原さんは昨年、セルビア・ベオグラードで開かれたユニバーシアード大会の女子1万円で金、5000円も銀メダルを獲得。吉本さんも、今年4月の兵庫リレーカーニバル女子1万円で日本学

生記録を約16秒上回る31分30秒92の新記録で準優勝。トップの福土加代子さん(ワコール)との差はわずか1秒89で、アジア大会(11月、中国・広州)代表に選ばれるなど、個人競技でも実績を築いている。

西原さんは「両駅伝を連覇してこそ、本当の意味で認められると思います。是非勝ちたいです」、吉本さんも「(昨年の優勝校で)注目を集めるでしょうが、プレッシャーを感じずにいけば結果は出ると思います」と自信をみせた。佛教大陸上部のカラーについて、西原さんは「余裕を持った練習です。追い込みすぎた練習は、明るく日に影響が出るし、走る楽しさを奪うことになりません」と語る。吉本さんも「先輩、後輩が仲がよくて一緒に遊びにいくんです」と、雰囲気の良いことを強調した。森川監督については、「部員の気が緩んだ時の注意の仕方を含めて穏やかで、素直に何でも相談できる監督です」と、口をそろえた。



地域に根ざし、愛されるチームを目指す

森川 賢一 監督

06年春から監督として指導に当たっています。2大駅伝の連覇は目標ですが、選手は1年ごとに変わっていますから、私は初陣のつもりで取り組んでいます。部員は駅伝に向けて、全員で取り組もうという意味で「全員駅伝」ということを言っています。

指導では、大学の課外活動なのでから人間づくりと、地域に根ざして愛され応援されるチーム作りを意識しています。部員を見

ていますと、入学直後は「お客さん」みたいな感じで余り積極的ではないのですが、学年が上がるにつれて、責任感も出てきます。

競技について言いますと、例えば、野球は4番バッターを9人集めても勝てるチームにはなりません。駅伝は4番バッターを6人集めれば勝てます。そういう意味では、学生レベルではなく、日本の、世界の4番バッターを目指して選手たちが伸びるように、一人一人の選手にマッチした個別指導を心掛けるようにしています。

京滋大学野球連盟に所属し、春季・秋季リーグで最多優勝を誇る。今春で連続8シーズン、計48回の優勝となった。全国の大学野球の強豪が競う全日本大学野球選手権大会(6月)と明治神宮野球大会(11月)でも健闘し、佛教大の名を高めている。今季もプロ野球球団が注目するエースの大野雄大さんを擁して有利に戦いを進めており、神宮大会優勝を目標にしている。

何ができるかを部員みんなで話し合いました。身なりも含めた日々の行動で自覚と責任感を持ってやっていこう、もう一度文武両道といいますが、大学生活と野球の両立ということを確認しました」と話す。

チームについて、三島さんは「全国優勝を狙えるチームに仕上がっています。ムードもいいので、しばらくは追い越されないような成績を4年生が中心になって残したいと思っています。佛教大といえ、野球が強いという連想がわくように頑張りたい」。速球勝負が持ち味の大野さんも「以前はやや格が下に見られていた京滋リーグでしたが、手ごわいと思われようになってきました。私たちにとってはラストシーズンですが、チームとしては全国で戦える土台づくりはできたと思います。さらに、速球、ストロートのレベルを上げて、神宮大会で昨年のベスト4以上の成績を残したい」と闘志を見せた。



大野 雄大さん(写真・左)、三島 之拡さん(写真・右)

「全国優勝で恩返しを」闘志新たに

硬式野球部

社会学部 現代社会学科4回生 / 社会学部 現代社会学科4回生
主将 三島 之拡さん / 投手 大野 雄大さん



B-ism
2010
October



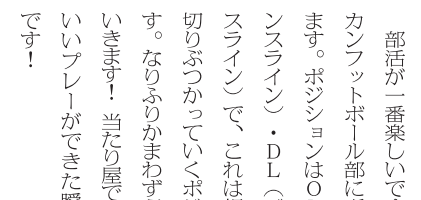
「京都タワーなみの眺望」

「佛大ってどこにあるの?」よく聞かれます。あ、たは説明できますか? 京都市北区の紫野にある佛教大学の周辺には、金閣寺をはじめ、船岡山や今宮神社など京都らしさがあふれています。そんな私たちの大学の窓から見る景色が綺麗なのを知っていますか? 実は大学の校舎の高い階と京都タワーの展望室はほぼ同じ高さにあるらしいのです。東寺の五重塔よりも20cmは高いのが。京都タワーはもちろんだ、大文字山など京都市内が見渡せます。おすすめは5号館から見える景色です。勉強で疲れた目を癒してくれるかもしれません。[武田]



仏教学部 仏教学科1回生
長野玲於奈さん
ながの れおな

部活が一番楽しいです。アメリカンフットボール部に所属しています。ポジションはOL(オフライン)・DL(ディフェンズライン)で、これは相手に思い切りぶつかっていくポジションです。なりふりかまわずぶつかっていきます! 当たり屋です(笑)。いいプレーができた瞬間は最高です!



仏教学部 仏教学科1回生
長野玲於奈さん
ながの れおな

部活が一番楽しいです。アメリカンフットボール部に所属しています。ポジションはOL(オフライン)・DL(ディフェンズライン)で、これは相手に思い切りぶつかっていくポジションです。なりふりかまわずぶつかっていきます! 当たり屋です(笑)。いいプレーができた瞬間は最高です!



文学部 人文学科2回生
山本絵梨さん
やまもと えり

今回の取材を通して、たくさんの学科の人の話を聞くことができました。ありがとうございます。正直なところ、同じ大学でも学部が違うとどのような勉強をしているのか全く知りませんでした。また、1・2回生の話を聞くと自分達の入学当初を思い出すようで懐かしかったです。取材に協力していただいた皆さん、本当にありがとうございました。[武田、山田]



歴史学部 歴史学科1回生
下地浩平さん
しもじ こうへい

部活をしているときが楽しいです! 軟式野球部に所属しています。ポジションはキャッチャーです。部員全員で一致団結して日々練習に励んでいます。真剣に野球できるのも学生のうちだけ! そして、一緒に頑張れる仲間と共に過ごせるのも今だけ。野球、頑張ります!



教育学部 臨床心理学科1回生
川城生さん
かわしろ いつみ

大学生活全部が楽しいです。非公式団体「臨心バスケ」に所属し、バイトも三つ掛け持ちし、充実しています。学科やサークルの友達、先生とわいわい喋ることが楽しいです。先生とも距離が近いので気軽に相談などできます。将来の夢である臨床心理士になるため、勉強も頑張ります。



教育学部 臨床心理学科1回生
中西勇介さん
なかにし ゆうすけ

全てが楽しいです。元々、佛科大学に入学し、幅広く心理学を学びたいと思っていました。授業が本当に楽しくて、佛大に入って良かったと思います。「どろんこ」というボランティアサークルに所属し、子どもが苦手だったのも克服できました。



文学部 英米学科3回生
永田勇気さん
ながた ゆうき

韓国に興味があり、2年間留学していました。韓国語が話したいと思い、じゃあ行ってしまおうのが一番早いと思ったのがきっかけです。韓国語はもう話せます。現在は韓国の留学生が日本語を勉強する授業のお手伝いをさせてもらっています。話すことはもちろん、向こうの文化を知ることも勉強になります。英語の勉強もしており、やはり、語学について学んでいきたいと思っています。そして、将来はアナウンサーになりたいです! また、スキー部にも所属しており、主将をしていました。アグレッシブに過ごしていきたいです!



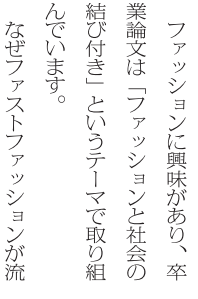
社会学部 現代社会学科4回生
廣井規一さん
ひろい きいち

ファッションに興味があり、卒業論文は「ファッションと社会の結び付き」というテーマで取り組んでいます。なぜファストファッションが流行っているのか、現在の大学生のファッションに対する意識などを調べています。春からは、アパレル会社に勤める予定です!



社会学部 社会学科3回生
馬場啓輔さん
ばんば けいすけ

子どもが大好きで、保育士の資格取得を目指しています。保育園でのアルバイトもさせていたいです。児童虐待問題についても興味があります。また、英語にも興味があり、通信教育課程との併修で、英語の教員免許も取得予定です。将来について、まだまだ模索中の日々です!



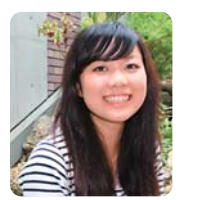
社会学部 公共政策学科2回生
木村有花さん
きむら ゆうか

学科の仲良しメンバーと一緒にいるときが一番です! 男女問わず仲のよいグループです。休日に草野球をやったり、放課後に7号館前でおしゃべりしたり、テスト前には一緒に勉強をしたり、何気ない時間も楽しく過ごしています。



保健医療技術学部 理学療法学科1回生
中川恵美子さん
なかがわ えみこ

友達と遊ぶことが楽しいです。週に1回は川遊びをしに行っています。京都出身ですが、京都散策もします。おすすめは鴨川上流と岡崎の京都市動物園です。学科に他府県出身の子が多く、実家巡りも最近ハマっています。やっぱり大学生って高校生とは違って自由で、その自由が楽しいです。



教育学部 教育学科4回生
相澤美香さん
あいざわ みか

教員を目指しています。大学では、ゼミの活動が主です。佛科大学の小大連携事業で京都市の小学校の授業に参加させていただき、空気をテーマにした授業を企画・実践しました。子どもがもっと驚くような実験を見せ、理科の楽しさを感じてもらえたと思います。

佛大なう NOW!

取材・編集 武田愛美 山田美遊

佛科大学にはいろんな人が通っています。どんな勉強や活動をして、学生生活を楽しくしているか、キャンパス内で聞きました。皆さん笑顔で答えてくれました!



「救われるお言葉」

佛科大学の中庭の、法然上人の像の隣に、いつも言葉が張り出されているのをご存じですか。佛科大学の課外活動のクラブの傳道部の方々が、時折変えてくださっています。ある日の夕暮れ時、中庭で友人と他愛もない世間話をしていました。おたがい、進路の悩みであったり、恋愛の悩みであったり……いろいろある大学生生活です。そんなとき、ふと目に付いたその言葉。「いい言葉やな」。しみじみとその言葉に目をやっていた。心に染み入る有難いお言葉に救われたわたしたちでした。 [山田]



「中也」の詩、真剣に議論

近代詩歌を研究する坪内ゼミをのぞいてみた。人気のゼミだけに、3回生で29人が在籍している。就職活動が始まっており、リクルートスーツ姿の学生の姿も目立つ。教壇には、この日発表する3人の学生が立つ。坪内教授は聞き手の学生側の席についた。テーマは、この日発表する学生が選んだ中原中也の詩「追憶」。この詩は、中也が何度も推敲しながら、生前にはなぜか発表されなかった。中也と同様していた長谷川泰子が、友人だった小林秀雄の誘いに乗って、中也のもとを去ったことを記したものと

とされている。長谷川は後に小林と別れて女優になり、小林は文芸評論家として活躍する。ゼミでは、発表者が、時代背景や当時の人間関係、細かい推敲の跡について分析、解説。聞き手の学生からは、さかんに質問が出される。なぜ中也がこの作品を発表しなかったかについて、学生から「個人のストレートな感情が出過ぎて」「オレの恋人を取られたという悔しさや悲しみが分かりやす過ぎて、芸術作品になっていない」など、作品の未完成さが理由ではとの声が上がります。

坪内教授は、それも認めつつ、中也が別の女性と結婚していたことを指摘して、「この作品を発表したら、奥さんから『詩に出てくる“あなた”って誰よ』なんてことになるだろうかと、結構現実的な質問を浴びせる。また「長谷川や小林という、中也の人間関係を知らずに、この作品を読んだとしたら、面白い作品と思えるだろうか」と、独立した作品としての評価を学生に考えさせた。最後は、教授のリクエストで、発表した学生の一人が「追憶」を即興で大阪弁に翻訳、教室は笑いに包まれた。

ある日の坪内ゼミ

河馬を見に天王寺動物園に行ったという。「僕は他の仕事と重なって行けなかったのですが、園長先生を紹介して案内してもらい、学生も楽しんでようです。園長さんからは『佛教大学の学生さんは熱心に見てくれるので、また来てください』と言われました」

仏教的におおらかです
今の学生の印象は、「社会のまじめさを反映しているのか、まじめです。講義も休みません。祇園祭のときなんか休んだらと勧められても、出てきます。うちだけではないですが、大学も出席日数を評価の対象にする方針がありますし、社会全体に『遊び』がなくなってきたらいいんじゃないかな。抵抗しようと思わなくても、抵抗しきれないので、せめてゼミの時間は楽しく、中身の濃い議論を思っているんです」。

大学については、「『佛教』とどうも前の大学です

から、世間にはガチガチの佛教の学校というイメージがあるんですが、僕は意識していません。基本的には佛教の精神を大事にしましょうということなので、それこそ仏教的におおらかです」。学部構成をみても、宗教学は余り感じないという。しかし、日本の文学・歴史は佛教の考え方が根幹をなしているともいえる。そういう意味では、研究で仏教的な疑問が出たら、すぐに仏教学部の先生に聞けるし、文献もそろっているという。

「芥川龍之介が作品の『動物園』の中で、達磨大師が『仏法は水中の河馬』と言ったと書いていました。それで、以前の学長に『(大学の)庭に池を作って河馬を泳がせたらどうですか』と提案したんですけど、それは実現しませんでした」と笑った。

厳しい社会情勢の中で、文学そのものが下火になっていることを危惧する。

「僕のいる日本文学科は、今年の春にできたばかりなんですけど、僕の考えだと、これは時代に逆行しているんです。いろんな大学では、日本文学科や国文学科はどんどんなくなっているんです。そうした中で、やはり、日本文学は大切なんだ、もう一回ちゃんとやろう、という佛教大学の意志を感じています。そのスタンスがうまく社会に伝わればと思います」。

最近では、学生の中にかつての教え子の子どもがいる、二代にわたっての先生になるケースもある。「俳句好きのおじいちゃん、おばあちゃんに頼まれた」と、学生からサインを求められる。「僕は学生より、その家族に愛されているのかも」と、坪内教授は目を細めた。



研究室には、プレゼントされた色とりどりの河馬の小物が並ぶ。

坪内 稔典(つぼうち としのり、俳号はねんてん)
1944年、愛媛県生まれ。立命館大学文学部日本文学科卒業。同大学院文学研究科修士課程修了。園田学園女子大学助教授、京都教育大学教授、同大学附属京都市中学校長などを経て、2002年から現職。俳句グループ「船団の会」代表を務める。2001年、第9句集「月光の音」で第7回中新田俳句大賞スウェーデン賞を受賞。今年「モーロク俳句ますます盛ん 俳句百年の遊び」で、第13回養原武夫賞を受賞した。句集に「わが町」「落花落日」「ぼほのあたり」「水のかたまり」など、著書に「俳人漱石」「カバに会う 日本全国河馬めぐり」など多数。毎日新聞に「季節刻々」を連載している。

「桜散るあなたも河馬になりなさい」などの句で、現代俳句に新しい地平を開き、高い評価を受ける坪内教授。学生から慕われる教授のゼミにお邪魔し、さらに、研究室で教育へのスタンスや佛教大学と佛教大生について、お話を聞いた。

坪内 稔典

文学部 日本文学科教授

「率直に言うとうと、エリートではないのがいい。それが強みだと思います」

大の河馬(かば)好きとして知られ、研究室の棚には教え子や知人からプレゼントされた河馬の小物が並ぶ。坪内教授はちょっと考えて、佛教大生をそう表現した。

「第一志望の大学に行けなかった子が結構います。僕もそうですが、ちょっとした挫折とか、ちょっとした傷を持っている。それを自覚しながら、生かすということが可能なこと。僕は正岡子規が一番好きですが、子規は典型的にそうなんです。病気になるたら病気を生かす。純粋なエリートでスツときた子たちよりも、青春時代がうまくいってないという実感を持っている子たちの方が、マイナスの条件を生かす楽しみがあるんですね。人生の先輩として、教師は力を貸すことができるかなと思っています」

近代日本文学が専門。主に詩歌を担当するが、俳句そのものを大学の授業で教える機会は意外に少なく、隔年で「句会」と「歌会」という俳句と短歌の講義を半年ずつ受け持つ。だが、学生は教授が俳句の第一人者というのはよく知っていて、講義の合間に自作を持ってくる。新聞連載でも、ゼミ生の作を何度か紹介している。

自らの講義については、学生たちが息抜きに来てくれるという感じもすると分析する。「今の世の中の世知辛さを逃れに来ているというか。きょうの中原中也を巡る議論にしても、すぐに役立つというものではないですから」。自分たちで考えて発表し、できるだけ議論しようというのをゼミの目標にしている。3回生のゼミも、みんながよくしゃべり活発になってきた。昨年は、教授が河馬についての本を出したこともあって、4回生のゼミ生たちが

「学生より、その家族に愛されてるかも」

言葉の楽しさを体験してもらいたい

第4回 佛教大学小学生俳句大賞 募集開始

全国の子どもたちに、俳句を通して言葉の楽しさを体験してもらいたいとの願いで始まったのが「佛教大学小学生俳句大賞」です。

今回も、佛教大学文学部教授であり、俳人でもある坪内稔典先生に中心となっていて、全国から寄せられた俳句の選考を行っていきます。

第1回(2007年度開催)は13,269句、第2回(2008年度開催)は23,043句、昨年度開催の第3回(2009年度)はさらに応募作品数が増えて26,946句もの応募がありました。

子どもたちの言葉世界を生き生きとして豊かなものにしていくために、今年も全国の小学生の皆さんから俳句を募集します。学校からの応募も可能、個人での応募も可能! 感性豊かな句を詠み上げ投稿してください。



刊行された第3回佛教大学小学生俳句大賞作品集



募・集・要・項

テーマ テーマは自由!どんな俳句でもOK!

応募資格 小学生

応募部門 ●低学年の部(1~3年生) ●高学年の部(4~6年生)

応募方法 ●一人で何句でも応募できます。

- 学校(団体)からの応募もできます。
- 専用応募用紙、またはA4サイズ用紙に専用応募用紙に準じた必要事項を明記の上、郵送にて応募してください。
- また、佛教大学ホームページ内の応募フォームから応募できます。
- 専用応募用紙は佛教大学ホームページからダウンロードできます。
- 学校(団体)からの応募の場合、ホームページから団体応募用のエクセルをダウンロードし、E-mailで応募いただくことも可能です。

<必要事項>作品、郵便番号、住所、電話番号、名前、ふりがな、性別、学校名、学年を明記

*応募いただいた個人情報につきましては「小学生俳句大賞」の実施にのみ使用させていただきます。

応募条件 ●応募する作品は、自作で未発表のものに限ります。

- 応募作品の著作権は、すべて学校法人佛教教育学園(佛教大学を設置する学校法人)に無償で譲り渡されたものとします。
- 応募作品は、入賞か否かに関わらず、佛教大学のホームページや出版物(市販品として発行する場合があります)に作者名、学校名、学年、都道府県名とともに掲載させていただくことがあります。
- 応募作品は返却いたしません。

賞の取り消し

「佛教大学小学生俳句大賞」には以下の取り消し規定を設けております。

1. 応募作品の盗作が明らかになった場合
2. 応募作品が類似作品と認められた場合
3. 応募作品が二重投句と判明した場合
4. 応募資格に準じていないと判明した場合

以上、4件に該当した場合は、故意のあるなしに関わらず、賞の発表後でも、受賞の取り消しを行います。これらの事故を未然に防ぐため、選考委員等のチェックを行います。応募の際に十分にご注意ください。

応募締切 2011年1月31日(月)必着

応募先 〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96 佛教大学小学生俳句大賞 係
E-mail haiku@bukkyo-u.ac.jp

選考委員 山極 伸之 (佛教大学長)
坪内 稔典 (佛教大学文学部教授)
山本 純子 (第55回H氏賞受賞の詩人)
原田 敬一 (佛教大学歴史学部教授)
西岡 正子 (佛教大学教育学部教授・佛教大学四条センター長)
達富 洋二 (佛教大学教育学部准教授)

賞
最優秀賞 図書カード3万円(低学年部門1名・高学年部門1名)
優秀賞 図書カード1万円(低学年部門4名・高学年部門4名)
選考委員特別賞 図書カード5万円(低学年部門6名・高学年部門6名)
入選 図書カード3万円(低学年部門10名・高学年部門10名)
佳作 記念品 (低学年部門100句程度・高学年部門100句程度)
学校優秀賞 希望に応じ本学教員による派遣授業(3校)
※学校と相談させていただきます。

発表 2011年3月上旬、入賞作品を佛教大学ホームページ上で発表いたします。
※入賞者(佳作を除く)には直接連絡いたします。

表彰式 2011年3月19日(土) 佛教大学で開催予定
※入賞者(佳作を除く)を表彰式にご招待いたします。

後援 京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会

俳句大賞ホームページ
<http://www.bukkyo-u.ac.jp/haiku/>

佛教大学小学生俳句大賞 係
Tel 075-491-2141(代) E-mail haiku@bukkyo-u.ac.jp

問合せ先



「第3回 佛教大学小学生俳句大賞」 学校優秀賞 受賞校 出張授業紹介

俳句大賞の賞のひとつに、学校単位で応募していただいた小学校への「学校優秀賞」があり、学校優秀賞を受賞された学校への副賞として、本学教員による出張授業が行われます。

この度、第3回の学校優秀賞受賞校のひとつである、鹿児島県薩摩川内市立西山小学校への副賞として、2010年6月25日に歴史学部教授の原田敬一先生が出張授業に訪問しました。

西山小学校は、青い海、白い雲、青い空に囲まれた、自然豊かな環境に恵まれた鹿児島県薩摩川内市の川内川河口から西方、東シナ海上約26kmのところ、甌島列島の下甌島にある全校児童5名の小規模な小学校です。西山小学校では、授業の合間の時間である、業間を利用して、俳句や詩などの創作活動に取り組んでおり、児童たちが言葉と触れ合う機会が積極的に設けられ、佛教大学の俳句大賞へも多数の俳句を応募していただきました。

西山小学校のモットーは「やる気日本一の学校」

原田先生の出張授業は、下甌島内の3つの小学校が合同で開催する「海星校区小学校3校合同学習会」の中で行われ、3つの小学校から80名の小学生に参加していただきました。原田先生が会場に入場すると「こんにちはー」と元気な声で迎えてくれました。児童たちにとっては初めての大学の先生による授業ということもあり、最初は緊張した面持ちでしたが、授業が進むにつれて徐々に明るい表情になっていくのが手に取るように伝わってきました。原田先生は西山小学校からの応募

作品の紹介や、甌島の歴史のお話を織り交ぜ、児童への問いかけなども行いながら、時には笑いもあり、出張授業は瞬く間に予定されていた時間が過ぎていきました。授業の最後に原田先生からは「今日は皆さんと楽しい時間が過ごせました。これから勉強、遊びに生懸命取り組んでいただき、ぜひ次回の第4回佛教大学小学生俳句大賞へも楽しい作品を応募してください!」とのメッセージを送り、甌島での出張授業は幕を閉じました。



サッカー審判員制度とは

1級審判員は全国に150人だけ

サッカーの公式試合の審判をすることができる資格制度。4、3級審判は都道府県のサッカー協会に所属し、2級審判は関西などの地域協会の所属、それぞれの協会が主催する公式戦の審判をする。1級審判になると日本サッカー協会の所属となり、JFL(日本フットボールリーグ)やJリーグ(日本プロサッカーリーグ)の審判を務めることができる。

昇級には、経験や推薦、さらに筆記・実技テストがある。4級審判員は約9万人、3級約2万人、2級約2500人で、1級は約150人しかいない。



© J. LEAGUE PHOTOS

審の姿を見ていると、「やはり自分も笛を吹きたくありません。そして、もっとレベルの高い試合で、と欲も出ます。3級時代の後半には『2級審判になりたい』と強く思いました」と話す。「でも、私がJリーグで主審を務めるとは、高校時代から考えると、夢のような話です」

僧職と審判という二つの道を歩んでいることに、自身は特に矛盾も共通点も感じないという。「ただ、副住職として法要の一座一座の場では、檀家の方々のことを考えて一生懸命に勤めます。またサッカーの試合でも選手たちのために、一生懸命に走ることしか考えていません。そこには、人と人との接し方などには何か、相互に高め合うものがあるのかもしれない」。幼いころから祖父の檀家回りに連れられ地域の人たちに可愛がられた。しかし、高校のころは「京都を離れたい」という気持ちもあっ

て、僧職を目指すことに迷いもあった。佛敎大学といえは僧侶を目指すというイメージもあったようだが、実際に入ってみると「周りには寺院関係の学生はほとんどいなかったです」。大学の思い出といえば、「自由で自然な雰囲気が好きでした。友だちと中庭に集まって、しゃべったり、昼ごはんを食べたり……」。若い人たちへのアドバイスは、と水を向けると、「アドバイスはいえなれないと思いますが、私は自分の好きなことをしてきました。みんなにも、自分が好きなこと、信じたことを続けてほしいなと思います。私も4級審判になって、それを続けることによって1級になり、Jリーグの審判になることができましたから」と語る。

大学時代に得た一番の財産は多くの友や師との出会い。サークルやゼミの友だちとは付き合いが続いている。当時のゼミの担当教授だった天野昭・月刊「ニューメディア」編集長とは関係が深く、今も本の装丁やデザインなどの仕事を依頼される。「ゼミ長をしていて、ゼミのホームページの管理・運営をしています。自由な現場主義、フットワークの軽さが大切だと教えられました。本当に勉強になったと思います」。彼の何事からも目をそらさない信頼感のある姿勢が、多くの人たちとの出会いにつながっているのだ。

岡 宏道(おか・ひろみち)
1979年、京都市生まれ。2003年、佛敎大学社会学部応用社会学科(現在の現代社会学科)卒業。知恩院などでの修行を経て、大乗寺(京都市左京区)副住職。洛北高校サッカー部時代に日本サッカー協会4級審判の資格を取り、1999年に3級、2001年に2級、2007年に1級審判員。31歳。



法要も
ゲームの笛も
「一生懸命につとめる」

社会学部応用社会学科卒業

岡 宏道さん



「審判が目立つような試合はダメな試合だと思えます」

真っ直ぐに人を見て話す瞳に、力と輝きがある。京都市左京区の大乗寺の副住職を務めながら、日本サッカー協会(JFA)の1級審判員として、Jリーグの試合で笛を吹く。サッカーの試合は土曜、日曜が多く、ほとんど休日はない。1試合で10キロ以上を走り、シーズンで担当する試合数は60試合を超える。昨シーズンは日本フットボールリーグ(JFL)の主審を多く務め、優秀レフェリー賞に輝いた。今シーズンはJ2の主審になり、北海道から沖縄まで駆けめぐる。

ピッチの主役はプレイヤー。選手がプレーに集中できるようにするのが審判の役割だと信じている。ゲームが終わって、両チームの選手たちが「いい試合でした」と握手してくれるような時、充実感がわく。小さいころからサッカーが好き

だった。地元の葵サッカースポーツ少年団(現・京都葵フットボールクラブ)で活躍。洛北高校でもサッカーにのめり込んだ。名に聞こえた強豪チーム。だが、レギュラーにはなれなかった。そこで、審判への道の第一歩を踏み出す。城陽高校との練習試合のとき、たまたま故障中で副審を命じられ、「君、結構うまいね」と当時の城陽高校サッカー部監督、現在は京都府サッカー協会副会長で審判委員長を務める山口森久さんに褒められた。それで、4級審判の資格を取りに行かされた。「レギュラーだったら、たぶん審判への道は歩まずに選手として頑張りたいと思ったでしょうね」と振り返る。

大学では、サッカー部に入らなかった。地元の少年サッカーの審判などを通して、フライングディスクを使ってアメリカンフット

ボールのように得点を競う「アルティメット」に打ち込む。アルティメットは「究極」という意味。ディスクを投げる、受ける、走るといった運動量もさることながら、身体接触なし、また、プレイヤーの自己判定で審判がない。大学のサークルの創設メンバー。「高校時代はその競技の存在も知りませんでした。試合を見て面白そうだと。これって何ていうスポーツなんですか、と聞くことから始めて、メンバーを集めました」。サッカーの審判を続けながら、自身は審判がない競技にひかれる。少し不思議な感じだが、アルティメットでは、プレイヤー全員が審判を兼ねているという点では、あるいは共通点があるのかもしれない。

一方、サッカーでは、審判委員会に出たり、ピッチで副審の立場で笛を吹く主

2011(平成23)年度 佛教大学入学試験日程

入試種別	出願期間	入学試験日	試験会場
公募制推薦	〔郵送〕11月1日(月)～11月8日(月) 〔本学持参〕11月9日(火)	11月24日(水)・25日(木)・26日(金)	本学・名古屋・金沢・米原・舞鶴・大阪・奈良・神戸・和歌山・岡山
大学入試センター試験利用入試(前期)	〔郵送〕1月7日(金)～1月13日(木) 〔本学持参〕1月14日(金)	◎センター試験日 1月15日(土)・16日(日)	個別学力検査等は実施しません。
大学入試センター試験利用入試(後期)	〔郵送〕2月12日(土)～2月28日(月) 〔本学持参〕3月1日(火)	◎センター試験日 1月15日(土)・16日(日)	個別学力検査等は実施しません。
一般入試A日程	〔郵送〕1月7日(金)～1月18日(火) 〔本学持参〕1月19日(水)	2月1日(火)・2日(水)・3日(木)	本学・東京・金沢・名古屋・彦根・福知山・大阪・神戸・奈良・和歌山・高松・米子・広島・福岡
一般入試B日程	〔郵送〕2月12日(土)～2月17日(木) 〔本学持参〕2月18日(金)	3月5日(土)・6日(日)	本学・名古屋・彦根・大阪・神戸・岡山

受験生向けイベント

- 一般入試対策講座 12月23日(祝) 本学 12月25日(土) 大阪
- オープンキャンパス 3月20日(日) 本学

BUまなび隊(公開講演会)開催予定

※BUまなび隊は通信教育課程地方オープンキャンパスの呼称です。

日程	場所	会場	講演内容	教員
1月22日(土) 13:00～	東京	ベルサール八重洲	●講演：京都の暮らしと食文化～伝統料理の秘密を探る～ ●入学説明会 14:30～17:00	八木 透(歴史学部教授)
1月29日(土) 13:00～	名古屋	第二豊田ホール	●講演：生涯学習で学縁づくり ●講演：縁にまつわる仏教話 ●入学説明会 15:00～17:30	白石 克己(教育学部教授) 田中 典彦(文学部教授)
2月19日(土) 13:00～	福岡	FFB福岡 ファッションビル	●講演：チベット系新興宗教の歩み ●講演：現代若者宗教事情～パワースポットからカルトまで～ ●対談：現代若者宗教事情	小野田俊蔵(歴史学部教授) 大谷 栄一(社会学部准教授)

宗教文化ミュージアム ■ 〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26 TEL(075)873-3115

日時	公演内容
11月20日(土)・21日(日) 14:00～	●第9回シアター公演 佛教大学開学100周年企画 「 仏教説話と宗教劇 」 出演/劇団アニマル王子 解説/八木 透(本学歴史学部教授、本館研究協力者) ※要事前申込 ※同日とも同じ公演内容です。 希望日を必ず明記のうえお申込み下さい。
1月22日(土) 14:00～	●第10回シアター公演 佛教大学開学100周年企画 「 日本の音楽・世界の音楽 東北の民謡 」 出演/民謡奏者 解説/小野田 俊蔵(本学歴史学部教授、本館研究協力者) ※要事前申込



2010
October

このたび、これまで発行してきた「佛教大学報」をリニューアルし佛教大学の今を多くの皆さんに知っていただきたく、
佛教大学広報誌「B-ism」を創刊いたしました。お読みいただきましたご感想やご意見を編集(広報課)までお寄せいただければ幸いです。
今後ともご支援よろしく願いたします。

佛教大学広報課

B-information

みんなの掲示板

2010年秋～2011年春までの
主な行事予定

Date
10 / 29 (fri.)
▼
31 (sun.)

鷹陵祭

Date
10 / 30 (sat.)

ホームカミングデー

佛教大学卒業10年目同窓生ならびに保健医療技術学部卒業1年目同窓生を対象として開催します。

Date
11 / 14 (sun.)

13:30～

場所/立本寺 客殿(上京区)

北野フォーラム
北野商店街及び周辺地域の活性化を目的として、本学が主催し、本年度は、地域の課題である高齢者の方の移動手段として「ツマン」ト交通」をテーマに行います。

Date
11 / 22 (mon.)

11:30～15:30

写経会
聖日法要日の午後、礼拝室にて写経会を実施します。道具は、すべて準備しています。

Date
12 / 7 (tue.)

10:40～12:10

釈尊成道会
音楽法要、宗教教育懸賞企画授賞式につづき仏像ガール(仏像ナビゲーター)氏を講師として特別講演会を開催します。

Date
12 / 27 (mon.)
▼
2011 平成23年 1 / 4 (tue.)

9:00～9:30

冬期休暇
※12/27・28は冬学期補講授業の可能性
があります。

Date
2011 平成23年 1 / 5 (wed.)

9:00～9:30

修正会・始講式

Date
1 / 25 (tue.)
▼
31 (mon.)

秋学期定期試験

Date
1 / 29 (sat.)

13:00～14:30

場所/佛教大学四条センター
〒600-8008
京都市下京区四条烏丸北東角都二井ビルディング4階
TEL(075)231-8004

同窓会提供講座「人間」
生涯学習提供の場として設置されている佛教大学四条センターにおいて、本学卒業生の大前千代子氏を講師として同窓会主催講座を開催します。

講師/大前千代子
(S53年3月社会学部社会福祉学科卒業)
80年バリンピックアーヘン大会(オランダ)アーチエリーで金メダル、車椅子で障害物をかわすスラローム競技で銅メダル獲得。96年アトランタから北京まで車椅子マラソンで4大会連続出場。

Date
2月予定

第4回緑シンポジウム
平成19年度の採択より全学を挙げて取り組みを進めてきた学生支援GPP「縁」コミュニティによる離脱者ゼロ計画の事業を報告し、その成果を発表します。

Date
2月中旬

場所/南丹市美山文化ホール
美山フォーラム
本学と南丹市、美山まちづくり委員会の三者が主催し、中山間地域のまちづくり課題であるモデルフォレスト活動、インターン・Uターン定住促進、特産品開発と販売、景観・環境保全の4つに絞って、美山の魅力や可能性をテーマに開催します。

Date
2 / 26 (sat.)

13:00～19:30(予定)

場所/松山市総合コミュニティセンター
緑日会 in 松山
学外版ホームカミングデーとして、講演は一般公開として開催します。

Date
3 / 14 (mon.)

10:00～

平成22年度
大学院学位記・卒業証書授与式
(第43回大学院・第59回学部・第33回別科(仏教専修))

Date
3 / 25 (fri.)

12:30～

平成22年度
大学院学位記・卒業証書授与式
(通信教育課程)
(第11回前期大学院第55回前期学部)

Date
4 / 1 (fri.)

平成23年度
入学式